



有明高専だより

第99号
1999.10



(剣道部)



(硬式野球部)



(水泳部)

目次

校長・主事室だより.....	2
先端設備導入.....	3
九州地区・全国高専体育大会等.....	4~5
シリーズ・中学校訪問.....	6
シリーズ・研究室訪問.....	7
第21回体育祭.....	8~9
公開講座.....	10
ロボットJリーグ.....	11
夏期実習報告、電気工事合格者.....	12
海外見聞録.....	13
シリーズ・クラブ紹介.....	14
英語弁論大会、ホンダエコラン、ソーラーボート.....	15
留学生歓迎会・編集後記.....	16

(表紙 平成11年度九州地区体育大会で優勝した3クラブ)

校長・主事室だより



「あなたもやれば
出来るのです」

校長
山藤 韶

あなたは、生まれつき他人より劣っているわけではありません。努力すれば、他人より優れたことが出来る素質を持って生まれてきています。

皆さんは、両親から受け継いだ自分独自の遺伝子を持っています。その遺伝子は、皆さんの体内の細胞の一つ、一つに全部含まれていて、その一個の遺伝子の中には、皆さんが人間として生きて行く為の三十億にも達する遺伝情報量が詰まっているのです。ところが、一生の間に活用する遺伝情報は平均的にはその僅か数%で、残りの九十数%は使用されないままなのです。

最近わかつたこの事実は、人間の能力の解釈に根本的な改革をもたらすことになりました。人間が持つて生まれて来た能力は全体としてはほとんど差がないのであって、何か他人より優れた事をする人は、自分の遺伝子を他人よりもたくさん、上手に利用しているに過ぎないことがわかつたからです。活き活きとした感動を持って遺伝情報をONにするよう努力すれば、他人よりもやや劣って生まれついたように見える能力も改善できますし、優れた能力も伸ばせるのです。自分が持つて生まれた能力の可能性を信じて頑張って下さい。



「門限がないから
帰らなくちゃ」

学生主事
宮川 英明

ある著名な人の学生時代の話の中に表題の言葉が目にとまつた。知人の演奏会に出かけ、聞き終えて帰ろうとしたとき、「もう一回演奏があるから聴いて帰つたら」と言われた言葉への返事が「私の家には門限がないから帰らなくちゃ」である。門限があればその時刻までに帰ればいいが、自分に任されている。任されているからいつ帰ってもいいのではなく、自分で判断し遅くない時間に帰るのである。これが眞の自由であり自己責任である。物事を適正に判断し実行するにはそれなりの感性や想像力を養う必要がある。自己中心の考え方では信頼される判断はどうていできない。

注意されないから、どんな服装身なりで学校に来てもよい、教室は雑然としていてもよい、歩きながら飲食してもよい、学校に何を持って来てもよい、挨拶や言葉遣いはどうでもよい、のではない。規則がなくても、注意されなくても、T P Oをわきまえ適正に行動できることが自立である。「門限がないからこそ帰らなくちゃ」である。全てに通ずるこの言葉をしっかりとみしめ、信頼に応える行動をしてほしい。



「目的を持って
学習をしよう」

教務主事
田口 純一

「したいことはできない。できることはしたくない」ゲーテの書いた「ファウスト」の中の言葉です。共感を覚える学生も多いと思います。しかし「勉強はできるけれどもしたくない」と思っている人がかなりいるのではないかと思います。学校では勉強できる環境が整っています。学生諸君の学習能力も高いはずです。「しかししたくない」。どうしてでしょう、「何のために学習するのか目的がはっきりしない」からではないかと思います。最近大学生でも卒業してすぐに就職しようという意欲にかけた人が多くなっていると言われています。皆が職に就かなくても暮らしていくならばよいのですが、職とは皆が豊かに暮らしていくために必要な仕事を分担しあっているのですから、皆がそれをしなかったらたちまち不便な世の中、いや皆生きていけなくなります。この自明の理を忘れては困ります。各人が己の個性を活かして専門の職を高度な能力でこなして初めて豊かな世の中になるのです。将来どのような職で世の中に貢献するのかそれぞれ考えて欲しいと思います。個人にとっても「最も幸福」を感じるのは人に感謝されたときではないでしょうか。



「基本は、いま、
ここで学ぼう」

寮務主事
川崎 義則

私は、12歳年上の兄がいる。とても厳しくその存在は兄というより父に近い。この兄から、本校の学生について、まったく両極端の忠告と評価を受けた経験があるので紹介したい。一つは15年前のきつい警告。不幸にも、当時4年の学生が交通事故で死亡、クラスメイトがその葬儀に参列した。「学校では、どんな教育をしているのか! 葬儀に赤や黄色の靴下の学生とは」。亡くなった学生の父親が兄と同じ企業に勤務され、兄が同席していたのである。いま一つは6年前、私の亡母の通夜のこと。多くの方のご弔問を受けたが、「あの3人の若い方は学校の先生?」。それは、卒業研究のまとめのなか来てくれたわが5Mの学生達であった。厳しい兄が素直にほめた。

15才で入学、成人して社会へ、もちろん各家庭における教育が基本である。同時に学校、寮、そして校外で、多くの時・場所・場面(T P O)を通して、人間としての基本的言動を学んでほしいものです。特に、毎日の生活の場である学寮は、自分を磨き高める最適な場ではないでしょうか。

先端設備導入!

物質工学科では平成10年度先端設備費により、高速液体クロマトグラフィー装置、走査型電子顕微鏡、最近では環境ホルモンの分析装置としても注目されているガスクロマトグラフィー質量分析装置等を導入しました。さらにそれらをネットワーク化し校内LANと結び遠隔地(例えは教官室等)のパソコンでデータの処理や解析が可能なシステムを構築しました。

最新設備が導入され、学科の教官研究、卒業研究の面でも今までできなかったこと等に取り組む事ができ、今後当システムをおおいに活用し、すばらしい成果が期待されます。また有明高専全体としての利用、さらに地元企業からの利用を期待しています。すでに複数の企業から利用依頼の申し出があります。以下導入した装置およびシステムについて説明します。

■高速液体クロマトグラフィー装置(以下よく使われる略号HPLC)



最高三液まで溶媒の混合ができ、紫外・可視および蛍光検出器を備えています。セミ分取から分析目的までの幅広い用途に利用可能です。化合物の精製から微量の生体成分の分析まで使用できます。

■自動蛍光偏光解消測定装置



光学的異方性をもつ物質が、偏光性が解消される現象を測定する装置です。物質間の相互作用が観察できる装置で、例えばホルモンと受容体の結合などが測定できます。

■落射蛍光位相差微分干渉倒立顕微鏡



試料を立体的に観察でき、更に蛍光抗体や蛍光色素で多重染色した試料の観察が可能です。この機能を利用すると培養細胞をはじめとする生物標本の物質の状態の解析等が行えます。

■走査型電子顕微鏡(SEM)



電子線を用いて物体表面を観察する顕微鏡です。可視光線による光学顕微鏡では見ることのできない最高10万倍までという高倍率で観察を行うことができ、また表面の凹凸の様子や細菌等の水分を含む物質の観察も可能となっています。

■ガスクロマトグラフィー質量分析装置(GC-MS)



GC-MSは、GCの分離、MSの定性機能を組み合わせた装置で高分離能、高感度分析が可能です。最近では環境ホルモンの分析装置としても注目されています。

■シーケンシャルインジェクション分析装置



反応容器の中に試薬を導入して化学反応を行わせ、検出器で得られる信号を解析して反応系の解析、定量を行う装置です。本装置は化学反応の定量システムに新境地を開くものです。

■熱分析(TG-DTA, DSC)



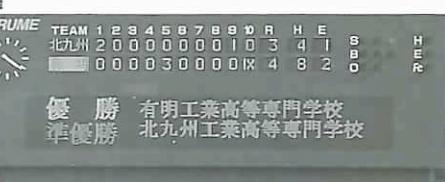
融点や重量減少や物質の熱的性質を測定します。DTAはDTAと似ていますが、定量性がよく、物質の反応熱の精密測定等に使われます。

◎ネットワークシステム



それぞれの装置のデータは校内LANと接続したパソコンならば簡単に転送し、一般的な表計算ソフトや画像表示用ソフトで見ることができます。

本システムについて質問等ありましたら物質工学科宛お問い合わせ下さい。(物質工学科)



第36回 九州地区高専体育大会

平成11年度 九州地区高等専門学校体育大会成績

<北九州会場>

▶陸上競技

総合	6位
男子4×100MR	3位 古川(5C)・染岡(2A) 徳永(4C)・山田(5E)
男子100M	1位 山田(5E)
男子走高跳	2位 河野(4E) 3位 河内(3I)
女子800M	2位 前田(5A)
女子砲丸投	2位 澤村(3A)
女子走幅跳	3位 黒田(1C)

▶ソフトテニス

団体戦	予選リーグ敗退
男子ダブルス	1回戦敗退
女子ダブルス	2位 永松(2I)・米田(2C)

▶バドミントン

団体戦	2位
男子シングルス	3位 吉開(4C)
男子ダブルス	2位 吉開(4C)・板橋(4I)
女子シングルス	3位 岡部(1C)
女子ダブルス	3位 松田(3I)・岡部(1C)

▶水泳

総合	1位
男子800M自由形	3位 高井(4E)
男子400Mメドレー	1位 紺井(4C)・古田(1A) 北島(5E)・上田(2M)
男子200M個人メドレー	1位 古田(1A)
男子200M背泳	2位 乙益(4A)
男子400M自由形	2位 高井(4E)
男子100M背泳	3位 乙益(4A)
男子100M自由形	2位 北島(5E)
男子400Mリレー	1位 上田(2M)・古田(1A) 紺井(4C)・北島(5E)
男子100M平泳	2位 古田(1A)
女子100M自由形	3位 田中(3C)

▶ハンドボール

3位

<久留米会場>

▶硬式野球

1位 (対 北九州高専)

▶バスケットボール

予選リーグ敗退

▶卓球

団体戦 予選リーグ敗退

男子シングルス 4回戦敗退

男子ダブルス 3回戦敗退

▶剣道

団体戦 1位

個人戦 2回戦敗退



<佐世保会場>

▶サッカー

2回戦敗退

▶柔道

団体戦 予選リーグ敗退

個人戦90kg超級 1位 片山美樹雄(5I)

90kg以下級 1回戦敗退

73kg以下級 1回戦敗退

▶男子バレーボール

3位

▶女子バレーボール

2位 (対 佐世保高専)

▶テニス

団体戦 2回戦敗退

男子シングルス 3回戦敗退

男子ダブルス 3回戦敗退

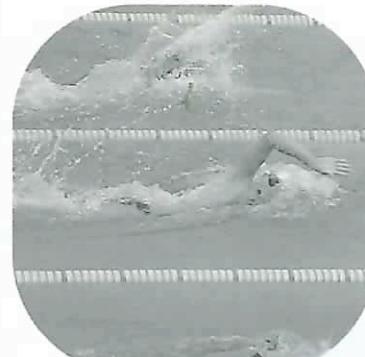
女子シングルス 3位 本村(4A)

女子ダブルス 2回戦敗退

▶女子バスケットボール交流試合

2位 (対 都城高専)

※太字の下線部分は、全国大会出場種目等



第34回 全国高専体育大会

平成11年度 全国高等専門学校体育大会成績

▶陸上競技 (香川県立丸亀球技場)

(男子100M) 5位 山田(5E)

(男子走高跳) 7位 河野(4E)

〃 20位 河内(3I)

(女子800M) 4位 前田(5A)

(女子砲丸投) 7位 澤村(3A)

▶ソフトテニス (丸亀市総合スポーツセンターテニスコート)

(女子ダブルス) 1回戦敗退

永松(2I)・米田(2C)

▶バドミントン (南国市立スポーツセンター)

(団体戦) 2回戦敗退

(男子ダブルス) 2位 吉開(4C)・板橋(4I)

▶水泳 (徳島県蔵本公園プール)

(男子800M自由形) 予選敗退 高井(4E)

(男子400Mメドレー) 予選敗退 紺井(4C)・古田(1A)

北島(5E)・上田(2M)

(男子200M個人メドレー) 5位 古田(1A)

(男子200M背泳) 予選敗退 乙益(4A)

(男子400M自由形) 予選敗退 高井(4E)

(男子100M背泳) 予選敗退 乙益(4A)

(男子100M自由形) 予選敗退 北島(5E)

(男子400Mリレー) 8位 上田(2M)・古田(1A)

紺井(4C)・北島(5E)

(男子100M平泳) 6位 古田(1A)

▶硬式野球 (西条市ひうち球場)

1回戦敗退 (有明6-7和歌山)

▶剣道 (新居浜市民体育館)

(団体戦) 予選リーグ敗退 (1勝1敗)

▶柔道 (徳島県立武道館)

(個人戦: 90kg超級) 1回戦敗退 片山(5I)



平成11年度 全国高専選抜 女子バスケットボール大会

期日 平成11年8月9日(月)～10日(火)

会場 新居浜工業高等専門学校第1・第2体育館

(新居浜市)

成績 予選リーグ敗退 (1勝1敗)

第29回 西日本地区高等専門学校弓道大会

期日 平成11年8月26日(木)～27日(金)

会場 徳島県鳴門総合運動公園弓道場(鳴門市)

成績 女子団体の部 3位

男子個人の部 優勝 中山(4E)



〈荒尾第二中学校〉

今年4月に赴任されたばかりの西村知美校長にお話を伺いました。

★学校の概要について

S22年に荒尾第二小と同じ敷地内に併設した形で559名でスタートしました。その後、児童数が増えたため、海岸近く（現屎尿処理場の地）に移転しまして、最も多い時は1352名を数えました。満潮時には海水が校庭に進入したそうです。その後児童数は減少し、S45に現在地（荒尾第二小の裏手）に再度移転しました。

現在、児童数は226人、1学年2クラス程度で、来年度は199人とさらに減少するようです。

本校の特徴は、1小1中学校区のため、生徒は荒尾第二小からそのままやってきます。いわば、9年間の小・中一貫教育をしていることになります。生徒も保護者も皆顔見知りですから、入学時点での不安がなく、お互いに仲良しであることが良いところですが、逆に切磋琢磨といった競い合うたくましさにやや欠ける点がみられるようです。

★教育目標と特徴について

教育目標は、自他を敬愛し、主体的に学び、良識を持って行動する、心豊かで、明るく、たくましい生徒を育成する。いわば、人間尊重の精神です。

具体的には、花のある、絵のある、歌のある学校をスローガンにしています。これは、環境が人を創るという観点と子どもの表現、子どもの姿が見えるようにというねらいからです。

教育実践での特徴は、授業づくり、体験づくり、環境づくりの3つです。

授業づくりは、平成14年度から新教育課程になるため、来年度からその移行に入ります。週5日制や選択教科など、授業日数や内容が大きく変わるので、教科ごとの基本を押さえること、基本的なことを繰り返して理解させることができより重要です。又、今年度は総合学習を実験しています。これは、家庭科と理科など共通的内容を教科を越えて教えるものです。

体験づくりは、実践力を養い、学校教育が社会と遊離することを避けるために、職場体験学習（いわばインターンシップ）をとりいれ、実体験活動を支援しています。昨年度から始め、2年生全員が3学期に1日だけ校区内や市内の事業所（昨年27事業所）を手伝う



西村 知美 校長

というので、幼稚園や郵便局、八百屋などのお店に出向いています。八百屋では早朝の市場のセリにも参加したりして、評判も良かったようです。今年は11月に予定し、文化祭で体験報告を発表します。

環境づくりは、花壇づくりや生徒の作品で校舎を飾ることを考えています。この見える・聞こえる環境づくりは、例えばごみ等もすぐに片づけ、校舎の壊れたところもすぐに直す、といったことです。

★学校の特徴について

第二小に隣接して小・中一貫教育的環境になっていることです。先生同士がお互いの研究授業を見学したり、部活動や体育の授業では、種目によって互いに見学に行き来しています。又、児童会と生徒会も交流し、小6年生は体験入学や授業見学を予定しています。

★部活動や生徒会活動について

今度、正課の授業のクラブがなくなるので、部活動には全員が参加しています。それほど華々しい活動はありませんが、個人種目は県大会に出場しました。茶道部では外部講師を招き、保護者も参加しています。

生徒会に活気があると学校全体がうまくまとまるところを重視して、生徒会活動を支援しています。生徒会主催で毎月3回ほど月曜日に生徒朝会を開いていますし、文化祭や体験学習の報告会なども運営します。

★情報処理教育について

これまでパソコンは20台程度でしたが、今年40台が入ったばかりです。技術家庭でワープロ、表計算、グラフィックス、簡単なBASICを教え、理科や数学では県で開発した教材ソフトを使用しています。今後、インターネット環境になったら、総合学習などにとりいれようと考えています。

★有明高専の印象や要望について

本校からもロボットリーグに参加しており、ますます開かれた学校にして欲しいと思います。

（8月5日訪問 聞き手 北岡敏郎）



研究室訪問

今年度に学位を取得された北岡教官、河野教官の研究室を訪問しました。



博士（人間環境学）

建築学科 北岡 敏郎

Q. まず、専門分野についてお聞きします。

専門は建築計画という建築の設計に直接関わる分野です。建物を設計する際は、利用者の要求を捉えることが重要ですが、利用者の要求は多様である上、多くは意識していない、つまり、顧在化していないことが多いわけです。そこで、利用の法則性を明らかにして、設計の指針を得るのが建築計画の研究です。

Q. 学位論文のタイトルと内容を教えて下さい。

論文のタイトルは「地域公共図書館の利用構造に関する建築計画学的研究」です。我が国の公共図書館は1970年代に開架・貸出中心へと転換しましたが、設計実践が中心で、計画研究はほとんどなされませんでした。ところが、近年では図書館利用の仕方も大きく変わってきました。その特徴を、相互利用によるネットワーク化、資料の複合利用化、滞在型化、ファミリー利用化の4点にまとめ、これらの利用構造の分析から図書館計画の設計指針を得たものです。ちなみに、学位は工学ではなく、人間環境学です。

博士（工学）電気工学科 河野 晋

Q. 研究テーマを教えてください。

私の研究テーマはパルスパワーに関する研究です。パルスパワーとはコンデンサなどに蓄えられたエネルギーを瞬時に放出することで得られる大電力の総称です。パルス幅は数10ns程度と短いですが、世界の消費電力に匹敵するGW級の電力を研究室で発生することができます。巨大な電力を狭い空間に集中できるパルスパワー技術によって新しい応用（高強度イオンビーム、電子ビームや軟X線の発生、大出力レーザ発振、ショックウェーブによる岩石破壊、パルスストリーマによる有毒ガスの分解除去やオゾン生成など）が実現可能となっていました。私は今まで主にパルスパワーの発生について研究していましたが、今後はこのような応用実験もしていきたいと思っています。

Q. 研究のきっかけをお聞かせください。

大学4年の時、パルスパワー分野で世界的有名な秋山秀典教授の研究室に配属が決まりました。当時、パルスパワー発生装置の高出力化、実用化には開放ス

Q. 研究のきっかけをお聞かせ下さい。

大学院時代に保育施設と子どもの遊び場について共同研究をしました。本校に来てからもそれらを続け、2人の先輩の学位論文になりました。その後自分の研究テーマを探していたところ、大牟田市立図書館が建て替わることになり、建て替えの前後でどのように利用が異なるのかを調査したのがきっかけです。最初はこれまでの知識の再確認にとどまるものでしたが、調査を重ねると、これまでの知識と利用の仕方が異なることに気づきました。

Q. 研究で苦労されたことをお聞かせください。

学内で行える実験と違い、研究フィールドが学外にある点です。卒研の時間内で図書館の利用を調査することは困難ですので、日曜や夏休みを利用しました。また、モデルを求めて福岡県内はもちろん、滋賀県や埼玉県などへ出かけ、その旅費を確保するため学生諸君にはアルバイトまでしてもらいました。

Q. 今後の研究の方向はどうでしょうか。

図書館のコーナー構成について明らかにしましたが、現在、図書館の規模を決める根拠などを検討しています。

Q. 卒研生へ一言どうぞ

どうせ研究しないといけないのだから、何のために、何を、どのように明らかにするのか、それが自分にどう役に立つかを考えて下さい。活かすも殺すも君達次第です。

イチの研究開発が必要不可欠でした。プラズマの導電性と磁場絶縁現象を利用したプラズマオープニングスイッチ(POS)の研究がその時に与えられた卒研のテーマであり、現在の研究のきっかけです。

Q. 現までの研究状況はどうですか。

今まで主であったPOSの研究では、POS単体の特性実験から実際の負荷を駆動する応用実験へと移行しつつあります。また、新しいテーマとして環境問題に関する研究を行いたいと考えています。

Q. 卒研生へ一言どうぞ。

やる気と根性と創造力でひとつの大きなテーマに取り組み、ゴールしたときの達成感を味わいましょう。



（左：河野教官）

第21回 体育祭

平成11年9月19日(日)

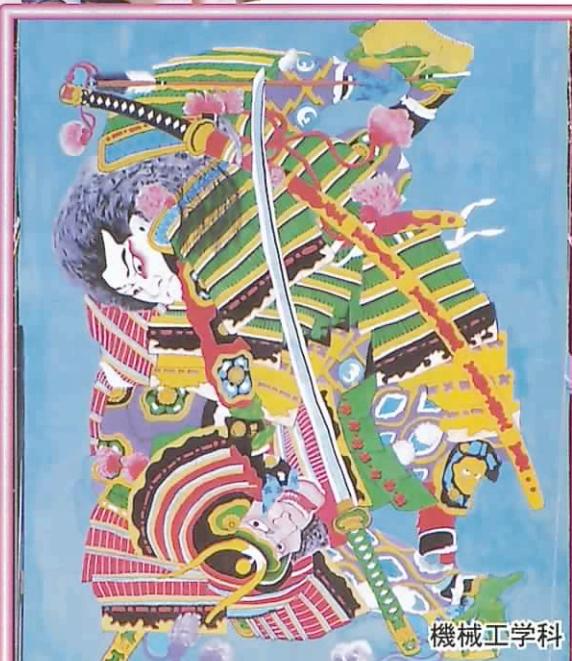
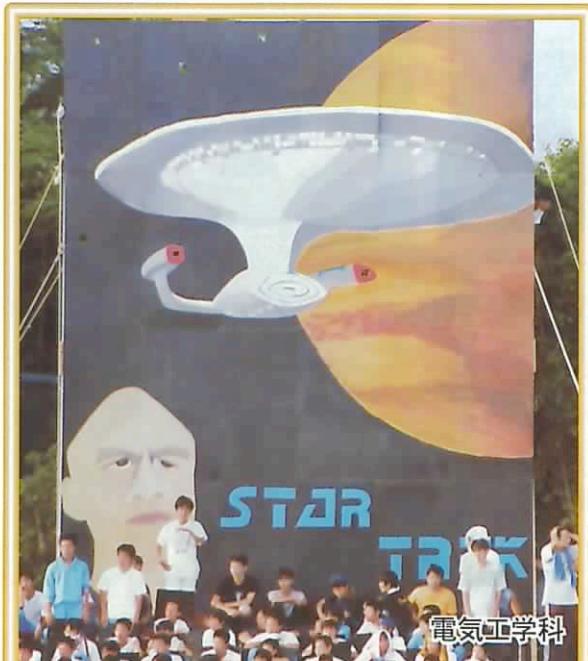
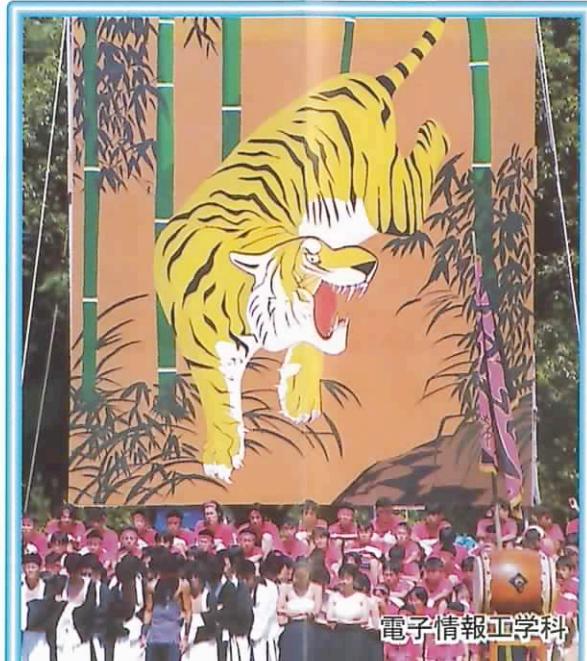
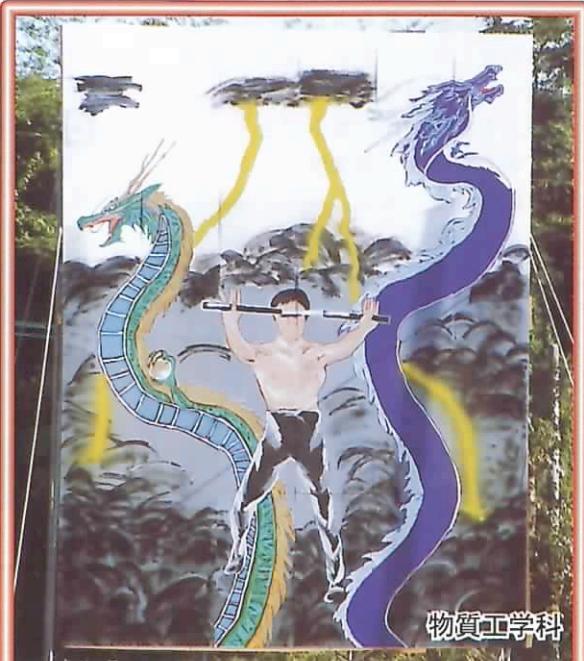
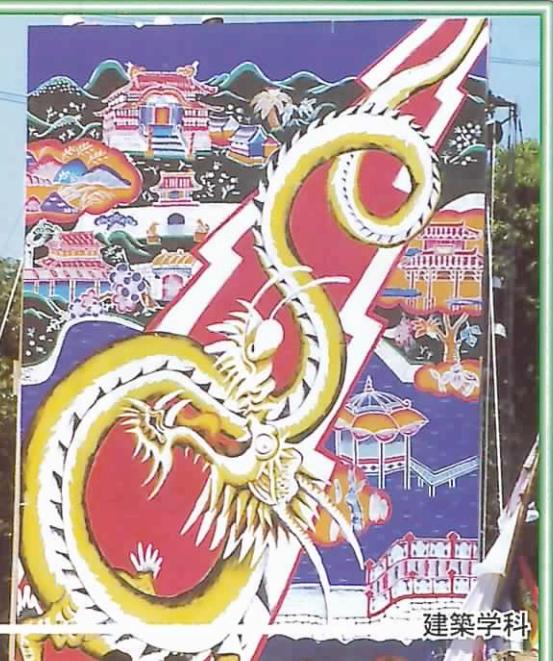


学生会長 5C 田川 勇氣
体育祭が終わり、あの忙しい日々から解放されました。同時に言いようもない虚無感に襲われ、体育祭が本当に行われたのかという疑問さえ感じるようになりました。それほど私にとって体育祭は、夢のような時間でした。みんなが1つのことを成しとげて流した汗と涙は美しいし、嬉しかったり、くやしかったりしたら涙を流すその感性をずっと大事にしていてほしいと思います。体育祭のMVPは他の誰でもなくあなたです。

体育祭実行委員長 5I 田中 力
体育祭の終わりとともに我々実行委員の仕事も終りました。数ヶ月前から試行錯誤をくり返し、この日の準備に取り組んできました。全学生の協力と先生方のお力添えにより、予想以上にすばらしいものができました。多くの人が協力し、何かをやりとげることの楽しさと難しさを経験できました。
私を含めみなさんが感じたこの日の情熱と感動は、人生の財産になるとともに、今後有明高専の活力となることでしょう。



各科 バックボード



公開講座

平成11年7月23日～29日にかけて、下記の公開講座が行われました。

◆デジタルデッキでビデオ編集

地域の話題、子供さんの入学式、卒業式、運動会、結婚式、祭りなどビデオ撮影の機会が増えています。撮影後、ビデオ編集により、より良い作品ができます。

最近はやりのDVノンリニア編集機2台を使用し、ノンリニア編集を体験していただき好評でした。



◆18世紀イギリス文学案内

「ロビンソン・クルーソー」と
「ガリヴァー旅行記」の不思議発見

作品が書かれた時代背景を説明し、その当時の言葉（英語）、文化、風俗などにも注意を払いながら、これらの作品のもつ本当の面白さを参加者と一緒に味わいました。



◆やさしい化学実験講座

化学の話を聞き、3～4人のグループで先生と一緒に化学実験を行い、化学のおもしろさ、楽しさを学びました。



◆楽しい折り紙建築

ケント紙を折りたたむと平面となり、開くとび出して立体になる不思議な折り紙建築を体験しました。



◆コンピューターとインターネットを知ろう

説明や実習を通して、それらの仕組みを理解し、その様々な利用方法を体験しました。

◆はじめて作るホームページ

パソコン用コンピュータの操作の基礎からWWWを用いた情報収集・発信までを実習を中心に行いました。

ロボットJリーグ有明ステージ'99

去る8月1日（日）、「小・中学生おもしろロボットコンテスト」ロボットJリーグ有明ステージ'99が荒尾総合文化センターで開催された。この催しは理科離れが指摘されている最近の小中学生に、ロボットを製作し動かすことを通して物づくりの楽しさや喜びを体験してもらい、子供たちの工学や科学技術に対する興味を喚起することを目的としている。今回で5回目となるが、これまで後援して頂いていた荒尾ロータリークラブに加え新たに大牟田ロータリークラブ、大牟田北ロータリークラブ、大牟田南ロータリークラブの4団体に共催をして頂き、また、大牟田、荒尾の両教育委員会にはこれまでと同様に後援して頂いた。

大牟田、荒尾両市とその近郊から小学校18チーム、65名、中学校13チーム、40名の計31チーム、105名と多くの小中学生の参加があり、この催しが地域に根づきつつあることがうかがわれた。

この大会に先立ち、7月21日から30日まで本校の機械工学科の教職員、学生の指導のもとに小中学生によるサッカーのドリブルとシュート機能を備えたロボットの製作が行われた。

機械工学科のスタッフによって製作された3台のモデルロボットとその設計図が準備されたが、小学生はその中からこれはと思ったロボットを選んで製作していたのに対して、中学生チームはドリブルやシュートの機能を自ら考え、オリジナルなロボットを製作していたことが印象深い。完成したロボットでの操作練習



（ロボットコンテストの様子）



（ロボット製作）

では、堅実にボールを確保したドリブルや力強いシュートが放たれ、子供たちにも満足な表情が見られるとともに、大会の盛り上がりが期待された。また、製作中には大会で司会のアシスタントを務める電子情報工学科の女子学生のインタビューにも子供たちは元気に応じ、ロボット製作の難しさや楽しさ、大会に向けての抱負などを語っていた。



大会では小学生チームと中学生チームに分れ、各々ドリブル競技、シュート競技が行われた。ドリブル競技では2本のポールを回りハーフラインまで戻ってくる時間を競い、シュート競技ではゴールした数を競った。両競技の総合成績で小、中学生チームからそれぞれ上位2チームが準決勝、決勝を戦った。決勝戦には手鎌ロボットチーム（手鎌小）とTEAM MIZOKUCHIチーム（橋中）が進み、巧みな操縦によるスピーディーなドリブルとシュートで手鎌ロボットチーム（手鎌小）が優勝した。練習では中学生チームの種々のオリジナルなドリブル、シュート機能が目を引いたが、大会では緊張のためかロボットをうまく操縦することができず、制限時間をオーバーするチームが続出し、その機能を十分發揮できなかったチームが多かったことが残念である。

夏期実習報告

夏期実習を終えて

4 | 山崎 博之

8月10日より26日までの間、東京都三鷹市にある日本無線の夏期実習に参加してきました。僕の場合、将来ソフトウェア系の職種に就きたいと考えているのですが、ハードウェアのことを知ることも大切だと思い、日本無線を選んだというわけです。

当社では様々な無線通信システムや情報管理システム、音響、交通、防災など業務内容は多岐にわたっていました。

そこで感じたのは、ハードを製作するのではなく、システムを構築・設計すること。少しニュアンスが違うのがわかりますか？

つまり、ソフトもハードも両方使える人間が生きていける世界という印象で、自分はまだまだ未熟者だと痛感しました。

実習内容は『業務用デジタル無線通信システム、車載機制御部用PLDの設計』であり、タクシーなどに使用されている無線機をデジタル通信システムにした新開発のものです。その中の制御部用のPLDを設計させてもらいました。簡単に言うと、論理回路をCADを使用して設計・シミュレーションを行うというものです。

実のところ当初は基礎的な内容で、3年生のときに論理回路を学んでいたこともあります。始まって2日半で実習内容のほとんどを終わらせてしまったんです。担当者を困らせつつ、それを土台に開発中の新型無線機の一部を設計させていただいたというわけです。

最後に来年4年生となる方へ、僕は始まる前はついでいるかと心配していたのですが、担当の方は優しく親身になって教えてくれました。実習は初めて学ぶことが主です。だからこのような心配は無用で、もし知っていることなら更なる学を積むことができます。実習の意義はこれだけではなく、他の高専生や大学生とも知り合うこともできます。とても楽しく、また勉強にもなります。

ぜひ来年夏期実習に参加してみてください。



室町ケミカルでの実習を終えて

4 C 川内 美奈子

私は、7月26日から5日間、室町ケミカルで実習を受けました。この会社は、イオン交換樹脂の処理加工や医薬品の製造が行われています。

実習の内容は、パソコンを使ったカタログの作成や文書整理、試験室の補助などでした。カタログ作成ではワープロ(Word)を使えば簡単にできるはずのものでしたが、パソコンに慣れていないため、なかなか仕事が進まず、与えられた仕事をこなす事ができませんでした。また、試験室の補助をしている時に「Excelできる？」と聞かれ、自信がなかったので「できません」と答えるしかありませんでした。「就職するとパソコンが使えないから仕事ができない」と困るのだと」ということを実感させられました。

試験室では、粒子形はよく似ていますが、性能が異なる二種類の樹脂の混合物中のそれぞれの樹脂の性能試験をする実習がありました。まず、それぞれの樹脂を分離する作業があったのですが、樹脂の直径は1mm弱、ピンセットで分けるように指示されました。とても時間のかかる根気のいる作業を何時間もやりました。ところが、夕方になって、そこに社長がやって来て、その樹脂の混合物を食塩水に入れるのです。二種類の樹脂は食塩水中できれいに分離していました。この方法だと楽に早く分離することができたのです。こんなふうに工夫して仕事を効率良くやる力があればとても役に立つ人になれると思います。この社長がこの方法を思いついたのはきっと豊富な知識と経験があったからでしょう。就職して、どんな知識や経験がどんなふうに役に立つかはわかりませんが、「今の自分にできることは学校で学ぶ知識や技術をがんばって自分の身につけ、力にすることだ」ということが今回の実習で見いだせたと思います。



平成11年度第1回電気工事担任者試験合格者

・デジタル第1種 遠藤 泰史 5E 田中 克史 5E	・デジタル第3種 谷川 洋介 5E 田中 義和 5E 内山 大輔 5E 山田 崇仁 5E 鍋田依一郎 4E	・アナログ第1種 北島 健介 5E ・アナログ第3種 植田 麻美 5E
・デジタル第2種 目野 宗利 5E		

海外見聞録



今夏多くの先生方が海外へ渡航されました。
その中で2名の先生に報告していただきました。



バーミンガム大学の卒業式

一般教育科 安部 規子

3月末、修士論文の提出に苦しんでいた時、私の心の支えだったのは、イギリスの大学の卒業式に出席してみたい、という好奇心だった。

7月、願いがかない、イギリスへ向けて飛びたった。大学は、工業都市バーミンガムのイメージとは違い、谷や湖まである自然環境に恵まれた広大なキャンパスにあった。

卒業式はここでは、Degree Congregationsと呼ばれ、卒業生が着るアカデミックローブ（黒いガウンと房のついた帽子）は安くレンタルできる。当日、ローブの着つけをしてもらうと、普段はTシャツにジーンズ姿の学生たちも別人のようになり、一緒に出席する両親とキスしたりハグしたり写真を撮ったり、と一家の大イベントに控室はにぎやかだった。

講堂にファンファーレが鳴り、パイプオルガンの演奏の中、学長以下教授達が一列で入場した。その一人一人が違ったローブと帽子を身につけており、全員がステージで着席した光景には、シェークスピア劇の一場面でも見ているような気持ちになった。

学長のあいさつに続き、卒業生が一人ずつ名前を呼ばれてステージに上がり、学長と握手して、お祝いの言葉をもらう。とても親しみの感じられる式の進行であり、多くの国籍の学生がいるため、名前の読み方を確認されたり、ステージに上がる前、係の人がローブや帽子をちょっと直してくれるなど、細かい配慮が感じられた。最後にイギリス国歌の演奏を聴きながら、久しぶりに学生と主役となる貴重な機会をこの機会を共に感動した。



中国 西安 北門城壁（唐長安城壁）から西安市街を望む



シリーズ

グラブ紹介

今回は、硬式野球部と漫画研究部の紹介です。

硬式野球部

主将 4M 嘉悦 大地

「我らが誇り高き黄金バッテリー」



この夏、我々野球部は悲願の全国大会出場をはたした。この全国大会出場はこの二人を抜きにしては語れない。主将で捕手の田中克史（5E）、左腕のエース高柳力也（5A）である。2年前、彼らが3年生の時の地区大会で迎えた決勝戦、相手は北九州高専、高柳は4回からマウンドにあがった。結果は敗退。

4年生になった高柳は走り込み、投げ込んだ。それに黙って付き合う田中。再び決戦の時を迎えた。決勝戦の相手はまたしても北九州高専。惜しくも敗れる。

主将となった田中は敗れた翌日もグランドに顔を見せた。「主将である以上、自分が一番努力した人間で

なければならぬ。」これが田中の考え方であった。

そして、二人は最後の夏をむかえた。場所は久留米で、応援も多かった。高柳は3度目の決勝のマウンドにあがった。相手は北九州高専、2点を先制された。また負けるのか。しかし、そういうことを考えなかつた男が二人、ピッチャープレートとホームベース間わずか18.44mをはさんで向き合っていた。二人は黙々と相手打者を押さえ込み、追加点を許さなかった。一方で、僕の打球は訪れたチャンスを生かし、逆転して3対2。ホッとした。そのまま9回表。しかし、あとアウト2つで優勝というところで同点に追いつかれ延長戦へ。10回の裏、二死満塁で僕の打席。結果はサヨナラ押し出し四球。真っ先に僕のところに飛び込んできたのは田中だった。それとは対照的に、高柳は目頭をあつくして整列の最後に加わった。

そして、表彰式。この二人が賞状と優勝カップを取りにいった。整列しているマウンドから表彰されるホームプレートまで18.44m。彼らの投げるボールはこの距離を幾度となく往復した。その距離を彼らはどんな思いで往復したのだろうか。いつも向き合っている二人が、この時は同じ方向を向いていた。全国大会は惜しくも敗れはしたもの彼らにとって最高の夏だったに違いない。

来年、僕は主将を任せられた。田中主将のようにはなれなくても一歩でも近づけるよう努力したい。

返したカップは必ず持ち帰る!!

漫画研究部

5C 山下満里子



こんにちは、漫画研究部です。

私達漫画研究部は、男子8名、女子13名の計21名と、文化部にしては珍しく大所帯にて明るく元気に活動しています。

普段は、ほぼ毎日誰かれともなく部室に集まってきて、漫画はもちろん色々な話をしたり思い思いに絵を描いています。

主な行事としては、4月の新入部員の勧誘からはじまって6月に毎年高知で行われているまんが甲子園への作品の応募、6月下旬から7月末にかけては有明高専主催のロボットJリーグのポスター及びバックボード描きがありますが、今年は残念ながら高専祭も小文化祭もないのですが、例年は、そこで部誌の発行と作品の展示を行っています。その他、依頼があればパンフレットや壁画製作など、様々なものにも取り組んでいます。

これから先の予定はまだ未定なのですが、積極的に個人製作を行って各人の技術力の向上に力を入れたいと思っています。

漫画研究部では、常時部員を募集しています。漫画が好きな人だけでなく、小説やゲームの好きな人も楽しめる部活です。また、男子部員も多いので、絵に少しでも興味のある人は男女関係なく気軽に遊びに来て下さい。

一緒に楽しくおしゃべりしながら、絵を描いてみませんか？

英語弁論大会

4E 山下 努

「九州地区国立高専英語弁論大会」が、7月22日に都城高専で開催されました。本校から2Aの西川さんがレシテーションの部に、3Cの三浦さんと私がスピーチの部に出席しました。

私は自分の夢について発表しました。原稿は全部自分で書かなければならないので、日本語でも作文が苦手な私にとって英語で書くのはとても苦労しました。

また、練習は大会直前まであり、なんとか自分の発表ができるようになりました。

大会当日、私は他校のスピーチに興味深く聞き入っていました。また、自分の発表のときは、聴衆の注視が私に注がれ、とても緊張しましたが、心を落ち着かせ楽しく聴いてもらうように努めました。

結果は、西川さんが2位、三浦さんが3位、私が特別賞を受賞することができ、皆喜んでいました。

この大会を通じて、自分の考えを英語で伝える難しさを痛感し、伝えられたときの面白さを実感できました。これらは貴重な体験となりました。

発表の直前まで、私たちのために、的確で親切なご指導をして下さった先生方のお陰で、皆良い成績を残すことができました。心から感謝いたします。



ホンダエコノパワー

5M 松岡健太郎

我々は8月8日（日）熊本県大津町のHSR九州で開催された第15回ホンダエコノパワー燃費競技九州大会の専門学校の部に参加した。

今年は製作に取りかかる時期が比較的早く、時間的にも多少余裕があった。毎年フレームの弱さが原因でリタイヤを繰り返しているため、今年はフレームの強化に力を入れた。4M横山君の溶接テクニックにより強靭なフレームが出来上がり、足回りも例年になくスマーズな動きだった。またエンジンは完走するために手を加えず、全くのノーマルのものを使用した。

しかし、その配線がわからず、無の状態からつなぎ合わせてゆき、不安を残しながらもエンジンがかかるようになり、試走することができるようになった。

大会当日、車検も一発で通り、練習走行も2M蓮尾君の運転で6週間快調に走った。今年は完走できると安心していたが、本番になって電気系統のトラブルによりエンジンが始動しなくなり、残念ながらリタイヤすることになった。練習走行が快調だったので、部員一同無念な気持ちでいっぱいであった。



柳川ソーラーボート大会

4M 尾道 健一

7月31日と8月1日、2日間に渡って柳川市で行われました。今回は船の安全性を第一に考えており双胴船にしたのですが、おかげでスピードを犠牲に、大会でも双胴船は自分達を合わせて2艇だけであった。

船を実際に造り始めたのが6月に入ってから、これでホントに大会に間に合うのか？と思っていたけど、6月いっぱい船は完成。7月は船のテストが充分にできた。



30日大会前日。学校を朝に出て昼柳川に到着。試走してみるとメチャクチャ調子がいい。周回レースはともかくスラロームで上位に入りそうなくらいの走りを見せてくれていた。だが試走を終え船を上げようとした時思わぬ事が。なんとソーラーパネル1枚が割れてしまったのだ。大会はパネル1枚で出場することになってしまった。

周回レース、スラロームはパネル1枚のため結果はあまりよくなかったが、フリースタイルコンテストでは船の安全性をみんなに見てもらうため船の上に立ちトランペットを吹いた。このパフォーマンスのよさで6位という好成績をおさめた。

思わぬ事故の為、あまりいい結果は出せなかったけど他のチームの船を研究することができた。来年こそは周回レース決勝に出場だ。

留学生歓迎会

今年も4名の新しい留学生が本校に入学した。

マレーシアからモハマッド ナグイブ ピン ア
ブデウラー君(3M)とハレム ピンサレ君(3E)、
バングラデシュからラハト カビル君(3I)、イ
ランからシャルミン タギザデさん(3A)である。

彼らの歓迎と関係教職員、学生の親睦をかねて、
去る6月3日、本校大会議室において「留学生を囲
む会」が催された。民族衣装をまとった4人の自己
紹介や母国の紹介、吹奏楽部の演奏などで、参加者
一同楽しいひとときを過ごす事ができた。



ラオスのお祭り



(写真中央がワンマコンさん)

今回はラオスの有名なお祭りを紹介したいと思
います。そのお祭りはブンタットールアンといい、ラ
オスの古いお寺で行われます。このお寺はラオスの
建国の際に建てられました。蓮の花の上に塔が立つ
た形をしています。毎年11月の満月の日にタットー
ルアンの仏塔は、たくさんの電球に照らされて金色
に輝きます。ビエンチャンの夜に浮かび上がるのです。
人々は掌でゆらめく小さな炎でほのかな紅色に染ま
ります。タットールアンの仏への帰依します。一年
に一度の祭りの日で、衆生は仏と融合します。祭り
の2週間前からタットールアンの周りには店などが並
び、ラオス全国から人々が集まっています。何千人
もの僧侶がラオス全土からタットールアンに集います。
僧侶たちは仏塔の回廊や周辺のお寺に泊まり、祭り
の日を待ちます。祭りの日の朝、人々はたくさんの
お菓子、米、果物、花、ロウソク、そしてお金など
を両手に抱えます。そしてそれを僧侶達に差し上げ
るのです。一年のうちで一番にぎやかなお祭り、ブ
ンタットールアンの終わりは花火で締めくくられます。

(4C サヤサン ワンマコン 記)

編集後記

好天に恵まれて、第21回有明高専体育祭は日頃の
成果をいかんなく発揮でき、とても素晴らしい体育
祭でした。有明高専では来年4月に向け、建設工事の
真っ最中です。新学期からの素晴らしい学習環境で
の学生生活を楽しみに、暑さと騒音にもかかわらず、
皆、勉学にクラブ活動にそれぞれ頑張っています。
有明高専だよりは次回100号となります。特集を考え
ていますのでご期待下さい!

有明高専だより 第99号
平成11年10月15日発行
編集・有明高専広報委員会
発行・有明工業高等専門学校
〒836-8585
大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861(学生課)